

天神橋 てんじんばし・Tenjin-bashi  
(土佐堀川)

中之島公園の先端付近の土佐堀川と堂島川に架かる橋が天神橋。文禄3(1594)年に架けられたと伝わるが、当時、橋名はなく新橋といわれていた。しかし、天満天神社が橋の北側にあったことから、次第に天神橋と呼ばれるようになり、寛文元(1661)年公儀橋になったといわれている。

天神橋は上町台地と大阪の北部を結ぶ重要な役割を果たしていた。それは天保8(1837)年、大塩平八郎の乱の発生を知った江戸幕府が、いち早く浪華三大橋(天満橋、天神橋、難波橋)を壊し、反乱軍を防ごうとしたことでも分かる。

橋は明治18(1885)年の大洪水で流失した。その後、鉄橋化されることになりドイツからの輸入品で、ボーストリングトラス桁橋が用いられた。

現在の橋は、第一次都市計画事業に基づき昭和9(1932)年に完成したもので、低めのアーチが周りの風景とマッチし、水都大阪の代表的な景観を作っている。昭和62(1987)年に、中之島公園の剣先側にらせん形のスロープが設けられると同時に美装化がなされ、遣唐使船の陶板ブロックや天満宮所蔵の天神祭絵巻を模した絵陶板が飾られた。